

Vol.30 8月のビットコインは要注意？歴史が示す『負けの月』でも今年は違うかもしれない理由(2025年7月31日)

ビットコイン週刊フォーキャスト

前回のレポート(Vol.29)振り返り

価格動向:

- ビットコインは史上最高値123,200ドルを記録後、116,000ドルから121,000ドルの間で安定した推移。
- 高値圏でのボラティリティ抑制は市場の成熟度を示すポジティブなサイン。
- 法案ラッシュ:
 - 暗号通貨業界にとって画期的な「法案ラッシュ」が発生。
 - **GENIUS Act**(7月18日成立): ステ이블コインの発行要件が明確化され、事業展開が容易に。
 - **CLARITY Act**(下院通過): 暗号通貨の規制権限がSECからCFTCへ移管され、ポジティブな影響が期待される。
 - **CBDC Anti-Surveillance State Act**(反中央銀行デジタル通貨監視国家法): 政府発行デジタル通貨(CBDC)導入を阻止する法案。
- 政治的配慮と戦略的思考:
 - CBDC禁止法案はトランプ大統領の政治的配慮によるもの。
 - 共和党の「政府の役割は小さく」という理念に合致し、政府による監視強化への規制となる。
 - 中国のデジタル人民元への対抗という側面も。
- 民間活力を生かすバランス:
 - ステ이블コインの発行権限を民間に委ねることで、暗号通貨業界への利益供与と米国債の買い手確保を同時に実現。
 - ステ이블コイン発行体は現在短期米国債市場の約5%を占め、米国債の買い手不足を補う強力なチャンネルとなる。
- ビットコインへの影響:
 - 米国債の発行増加とドルの流通量増加により、インフレが継続する見込み。
 - ビットコインやゴールドのようなハードアセットへの需要が強まる。
- 短期市場分析:
 - デリバティブ参加者は120,000ドルをニュートラルと見ている。
 - 大口筋トレーダーが過去最大のロングポジション(116,000ドル水準)を保有。

- 短期的なサポートは116,000ドル、仮に下抜けても105,000ドルが買い戻しとして機能すると予想される。
- 期待される上昇シナリオ:
 - 8月1日満期のコールオプションで、行使価格130,000ドルで建玉が最大になったとの報道。
 - CME先物限月終了後にビットコインが上昇し、7月31日に130,000ドルをつける可能性も否定できない。
- まとめ:
 - 当面、ビットコインは116,000ドルを割り込む段階で底値が堅くなる見方が支配的。
 - 法規制の明確化、機関投資家の参入拡大、構造的なインフレ期待を背景に、ビットコインは新たな成長段階に入った。

2025年7月23日以降 ビットコイン関連市場動向

7月25日

ギャラクシーが古株クジラ売却完了:8万BTC(約1兆円相当)の売却を完了、顧客の相続計画の一環として実施

7月29日

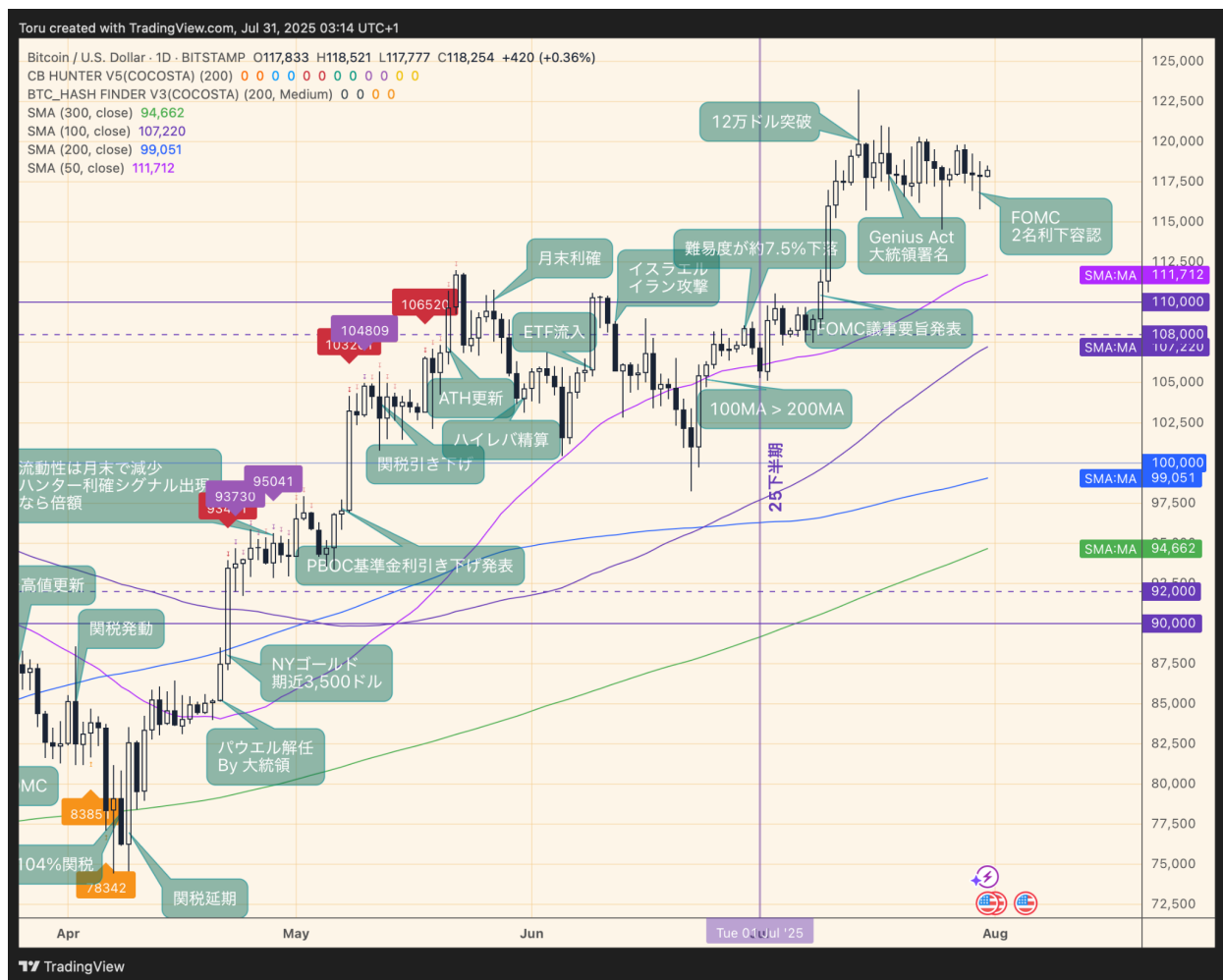
ストラテジー大規模購入:約25億ドル調達で2万1,021BTC追加購入、平均購入価格117,256ドル、総保有量62万8,791BTCに

米SEC重要決定:ビットコイン・イーサリアムETFで現物による受益証券の発行・償還(インカインド方式)を正式承認

7月30日

FRB政策金利据え置き:4.25-4.50%の範囲で据え置き、市場予想通りの結果

トコイン価格:現在17,556,117円(約117,800ドル)で推移、円建て・ドル建てともに高値圏を維持



[図1: 11.6万ドルで支持されるビットコイン]

市場概況 > VIX指数

15.48

+0.43 (2.86%) ↑ 過去 5 日間

7月30日 15:15 GMT-5 • 免責条項

1 日 | 5 日 | 1 か月 | 6 か月 | 年初来 | 1 年 | 5 年 | 最大



始値	15.87	安値	15.44	52 週高値	65.73
高値	17.27	前日の終値	15.98	52 週安値	12.70

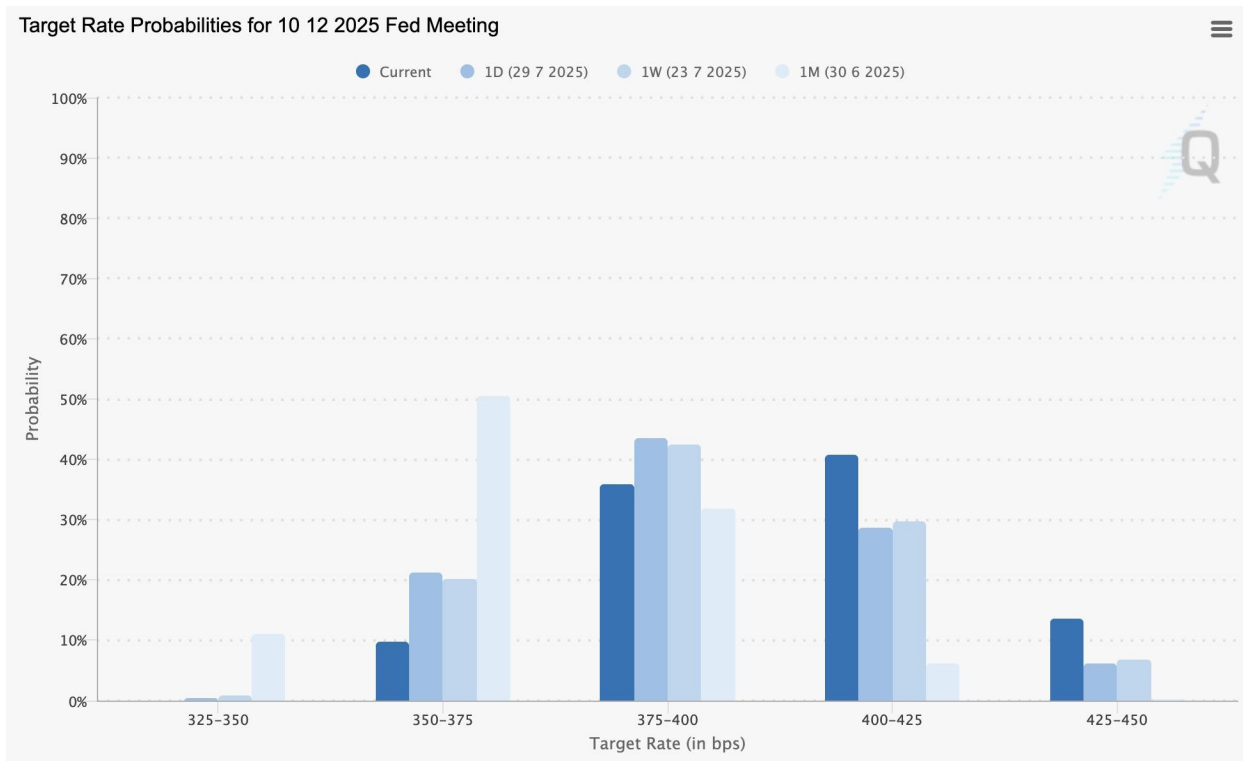
[図2: VIXは 上昇も16割れのまま]



[図3: ドテン売りも支持水準は106,000 - 116,000ドルに]

Symbol	Price	Index	Basis	BasisChg	Funding	Next FR	Yield	Open Interest	24h Volume	Expiry
BITMEX: XBTUSD	117432.2 (-0.4%)	117492.1	-0.06%	-4.5%	0.01%	0.01%	10.9%	358M (-1.1%)	539M (+35.5%)	-
BINANCE: BTCUSD	117423.7 (-0.3%)	117479.2	-0.05%	-1.2%	0.006%	-	7.0%	10773M (+0.6%)	14444M (+12.7%)	-
BINANCE: BTCUSD_PERP	117435.4 (-0.3%)	117473.6	-0.04%	-1.1%	0.01%	-	10.9%	3193M (+1.1%)	2223M (+9.9%)	-
BYBIT: BTCUSD	117427.6 (-0.3%)	117490.9	-0.06%	-1.7%	0.006%	-	7.6%	1607M (+0.3%)	803M (+26.8%)	-
BYBIT: BTCUSD	117435.5 (-0.3%)	117476.8	-0.04%	-1.0%	0.01%	-	10.9%	7178M (+3.4%)	7893M (+15.1%)	-
OKEX: BTC-USD-SWAP	117423 (-0.3%)	117482	-0.06%	-2.3%	0.009%	0%	9.8%	873M (+1.3%)	1020M (+16.3%)	-
HUOBI: BTC-USD	117421.1 (-0.4%)	117475.8	-0.05%	-5.3%	0.01%	-	10.9%	38M (+1.8%)	12M (+25.0%)	-

[図4: 主要な市場の認知は12万ドル＝売り]



[図5: 7月FOMCで年内の利下げ回数は2回折り込みへ]

Bitcoin Monthly returns(%)

coinglass

BTC ↕

Daily returns(%) Weekly returns(%) Monthly returns(%) Quarterly returns(%)

Time	January	February	March	April	May	June	July	August	September	October	November	December
2025	+9.29%	-17.39%	-2.3%	+14.08%	+10.99%	+2.49%	+10.6%					
2024	+0.62%	+43.55%	+16.81%	-14.76%	+11.07%	-6.96%	+2.95%	-8.6%	+7.29%	+10.76%	+37.29%	-2.85%
2023	+39.63%	+0.03%	+22.96%	+2.81%	-6.98%	+11.98%	-4.02%	-11.29%	+3.91%	+28.52%	+8.81%	+12.18%
2022	-16.68%	+12.21%	+5.39%	-17.3%	-15.6%	-37.28%	+16.8%	-13.88%	-3.12%	+5.56%	-16.23%	-3.59%
2021	+14.51%	+36.78%	+29.84%	-1.98%	-35.31%	-5.95%	+18.19%	+13.8%	-7.03%	+39.93%	-7.11%	-18.9%
2020	+29.95%	-8.6%	-24.92%	+34.26%	+9.51%	-3.18%	+24.03%	+2.83%	-7.51%	+27.7%	+42.95%	+46.92%
2019	-8.58%	+11.14%	+7.05%	+34.36%	+52.38%	+26.67%	-6.59%	-4.6%	-13.38%	+10.17%	-17.27%	-5.15%
2018	-25.41%	+0.47%	-32.85%	+33.43%	-18.99%	-14.62%	+20.96%	-9.27%	-5.58%	-3.83%	-36.57%	-5.15%
2017	-0.04%	+23.07%	-9.05%	+32.71%	+52.71%	+10.45%	+17.92%	+65.32%	-7.44%	+47.81%	+53.48%	+38.89%
2016	-14.83%	+20.08%	-5.35%	+7.27%	+18.78%	+27.14%	-7.67%	-7.49%	+6.04%	+14.71%	+5.42%	+30.8%
2015	-33.05%	+18.43%	-4.38%	-3.46%	-3.17%	+15.19%	+8.2%	-18.67%	+2.35%	+33.49%	+19.27%	+13.83%
2014	+10.03%	-31.03%	-17.25%	-1.6%	+39.46%	+2.2%	-9.69%	-17.55%	-19.01%	-12.95%	+12.82%	-15.11%
2013	+44.05%	+61.77%	+172.76%	+50.01%	-8.56%	-29.89%	+9.6%	+30.42%	-1.76%	+60.79%	+449.35%	-34.81%
Average	+3.81%	+13.12%	+12.21%	+13.06%	+8.18%	-0.14%	+7.79%	+1.75%	-3.77%	+21.89%	+46.02%	+4.75%
Median	+0.62%	+12.21%	-2.30%	+7.27%	+9.51%	+2.20%	+9.60%	-8.04%	-4.35%	+21.20%	+10.82%	-3.22%

[図6: 月次「中央値」は8月が最低]

ビットコインフォーキャスト 7月31日

7月の総括: 予想を上回る堅調な推移

今月最終日となりました。7月を総括してみると、約105,000ドルで始まったビットコインは、クリプトウィーク(※仮想通貨関連の法案審議が集中した期間)で関連法案が進展したことを受けて、一時123,000ドルまで上昇しました。

その後、120,000ドル付近に置かれた現物の指値売り注文に頭を抑えられ、後半は120,000ドルから115,000ドルのレンジ相場で月を終えることとなりそうです。

月初にお話していた内容を振り返ってみましょう。過去データによると、7月は月次平均で+7%のプラスリターンを出しており、さらにその前の6月がマイナスリターンだったことから、一部の資金が7月に入った段階から流入しやすいのではないかと予測していました。

結果として、7月2日から上昇を始めたビットコイン市場は、7月14日まで、つまり前半2週間を通じて上昇を続けることとなりました。予想がぴったり当たった形ですね。

8月の展望: 歴史的データが示す注意すべき月

では8月のビットコインはどうなるのでしょうか。

6月、7月と過去パターンが繰り返すのであれば、という前提になりますが、8月は月次リターンを見る限りプラスを維持しているものの、中央値(※データを順番に並べた時の真ん中の値)を見ると-8%となっています。

これが表しているのは、「基本的に8月は負けの月である」ということです。2017年に65%という大きなリターンを出しているからこそ、平均値としてはプラス側に配置されているものの、全体を通じてみれば負けの年が多かったことがわかります。

2013年以降の勝敗率を見ても、プラス4回に対して、マイナス8回となっています。もしもビットコインが過去の動きに忠実にトレースすることを繰り返すのであれば、8月はマイナスになる可能性が高いということになります。

機関投資家の心理を読み解く

もちろんこれは過去の動きであり、将来の動きを保証するものではありません。

しかしながら、機関投資家の頭に自分を置くのであれば、どこかでビットコインを利確（※利益確定売り）する必要があるなら、7月末までに行うというのも一つの選択肢でしょう。

さらに8月の後に来る9月に関しては、平均リターンがマイナス3.7%となっており、1年間を通じて最低の月となります。

そして9月に関しては中央値もマイナスであることから、できれば9月までには利確をしておきたいというのが、市場の心理ではないでしょうか。

半減期サイクルからの示唆

また、平均的な半減期（※ビットコインのマイニング報酬が半分になるイベント）の上昇サイクル自体は、半減期を迎えてからおよそ1.5年となっています。これが到来するのは25年およそ9月の末頃となっており、市場としては上昇サイクルも残り2ヶ月。

さらに残り2ヶ月の上昇期間のうち、8月・9月の過去中央値がマイナスである以上、それを見越して7月に事前売却しておこうと考えるのも当然でしょう。

7月25日にGalaxyが80,000BTCの売却を完了したという報道がありましたが、大量保有者にとってみれば一旦は売却する時期であったということが、この動きを物語っています。

下落を否定する材料も浮上

では8月はビットコインが激しく下落する月となるのでしょうか。こればかりは何とも言えませんが、それを否定する材料も出てきています。

直近7月22日のポジション明細では、大口筋のトレーダーがロングを切ってショートを積む動きを見せていました。過去このような動きが出た時は、例えば25年6月10日であれば、その直後から1週間程度で10,000ドル下げるといった動きが確認されています。

しかしながら、今回の大口売却は120,000ドルで行われているにもかかわらず、ビットコインはその後レンジの中に収まったまま、116,000ドルを割り込もうという動きは見ていません。

つまり、時期的な過去のパターンと、この大口の鯨（※大量保有者）の売却から「8月に入ったら下落する」と踏んだトレーダーたちが120,000ドルで売りに動いたわけですが、この効果が全く出ていないのが現状です。

金融政策の追い風

また、短期デリバティブ（※金融派生商品）の市場を見てみると、120,000ドルを背景に空売りで攻める動きも確認されています。

しかしながら、7月30日のFOMC(※米連邦公開市場委員会)では、メンバーのうち2名が利下げを容認するなど、パウエル議長の「データ確認してから」というカードを温存する姿勢に対し、利下げへの圧力が強くなり始めていることを市場は認識しています。

どちらかと言えば、市場が「8月に入ったら売り」という事前認知に対し、それに乗った空売りの売りポジションが一旦は踏み上げられる動きの方が、短期的には起こりやすいのではないかと考えます。

企業の購入意欲は継続

それもそのはず、大口の鯨がビットコインを相続で売却する一方、マイクロストラテジーやその他日本の企業も含め、ビットコインを購入し、株式の上昇につなげようとしている動き自体には全く変化がありません。

このような動きを見ている限り、ビットコインに一時的な調整が入ったとしても、基本的には強気な動きが続くと考えた方が妥当ではないでしょうか。

テクニカル分析からの視点

具体的な戻しの水準としては、前回お話しした通り、短期的なサポート(※下値支持線)は116,000ドル、仮に下抜けても105,000ドルが買い戻しとして機能しやすい状況が続いています。

またさらにテクニカル(※チャート分析)で見た場合でも、200日の移動平均線(※過去200日の平均価格)はまもなく100,000ドルに到達します。

100日の移動平均線に至ってはまもなく108,000ドルに到達しようとしており、これらの切り上がりは、ビットコインの下落水準の幅を圧縮しに行くことになります。

銅価格下落の影響

現状、ビットコインの下落の可能性を高めているのは銅の動きと考えます。

トランプ大統領の関税政策の中で、全体に関税がかかると思われ、市場は先回りして買いに向かっていたわけですが、精錬された銅は対象外であると決まった瞬間、銅は暴落しています。

ビットコインと銅価格には一定の相関関係があり、これだけ銅が激しく下落をしている以上、ビットコインも何らかの影響を受けると考えた方が現実的です。

しかしながら、ファンダメンタルズ(※経済の基礎的条件)を見れば、ビットコインの現物に対する意欲は衰えておらず、あったとしても、やはり調整の範囲で終わるのではないのでしょうか。

長期的な展望: 相続資金の流入

少し長期的なことを考えるのであれば、今から10年間を通じて富裕層が増える国のランキング調査で、台湾と日本が上位に来ていたことを思い出します。

台湾の場合は、純粋に半導体による収入ですが、日本の場合の理由としては単純で、高齢者に偏っていた資産が相続で次の世代に強制的に移転するからです。

もちろん移転された資金がビットコインに入ってくるという保証はどこにもありませんが、筆者の周りでもちらほらと相続で資金が入ってきた人の話は聞くことがあり、余ったキャッシュをどこに入れようかという話題を雑談ベースで受け取ることはよくあります。

筆者としては、そのたびにビットコイン動向よりも、法定通貨が過去にどれだけ価値が下落してきたかをデータベースでお知らせし、現金ではない実物資産に入れておくことを常にお勧めしています。もちろんこの選択肢の中にはビットコインも入っています。

インフレ圧力も追い風に

このように強制的に入ってきた資金の行き場がない状態の人たちは今後増えていく一方であり、さらに物価上昇率を見れば、日本においても、米の値段などは昨年対比で100%を超えることが続いているのが現状です。

現実的にインフレが起きているのは否定の余地もなく、これらに対する危機感が次の世代に強くなるに従い、ビットコインのような資産は買われやすくなってくると考えます。

結論：調整はあっても基調は強気

このような背景がある以上、ビットコインは強めに推移するのは、長期的な動きとして否定しようがなく、あるとしても一時的な調整と考えておいた方が現実的でしょう。

8月という月の特性を理解しつつも、長期的な上昇トレンドは継続すると見ています。投資される皆さんには、短期的な変動に惑わされることなく、冷静な判断をお勧めします。

今週は以上です。

引き続き、ハッピー・ビットコイン！